

# シンポジウム趣旨説明

光赤外天文連絡会運営委員長

吉田道利

光赤天連では、この数年、わが国の光赤外天文学の長期ロードマップ策定につき、議論を行ってきました。その成果は、「2010年代の光赤外天文学」と題する報告書として結実しましたが、その後、内外の急速な情勢変化のため、より具体的な全体構想を緊急にまとめあげる必要に迫られております。地上計画とスペース計画とを統合した長期計画の中で、何をどの順番でどのような形で実現していくのか、10年20年先まで見通したコミュニティの総意を提示し、広く訴えてその実現をはかっていかなければなりません。そのためには、まず、コミュニティ内での率直な議論が不可欠です。すでに2006年9月に、光赤天連主催のミニワークショップとしてこの議論をスタートさせておりますが、今回のシンポジウムではこれをさらに推し進め、地上とスペースを合わせた大きなロードマップを策定することを目指します。

国立天文台・台長様

国立天文台・光赤外専門委員会・委員長様

# 地上30m級光学赤外線望遠鏡計画の推進について

2006年11月

光学赤外線天文連絡会

## 1. はじめに

可視赤外線波長域は、恒星からの放射のピークに当たり、多くの原子・分子遷移線が存在するなど、宇宙を理解するための基本的な波長域となっている。地上の大型観測機器は、この重要な波長域で精密な観測を実施するために必須である。事実、すばる望遠鏡に代表される8-10m級の大型光学赤外線望遠鏡の登場は、天文学のあらゆる分野に大きなインパクトを与え、人類の宇宙に対する理解を飛躍的に高めた。日本の光学赤外線天文学の研究コミュニティの連絡組織である光学赤外線天文連絡会(以下、光赤天連)は、2005年に「2010年代の光赤外天文学」と題する報告書をまとめ、地上からの観測とスペースからの観測という両者を視野に入れたわが国の光学赤外線天文学の総合的な将来計画案を提示した。ここでは、すばる望遠鏡に続く地上30m級光学赤外線望遠鏡の実現に関して、国立天文台に対し、その積極的な推進と実行体制の整備を要望するものである。

# 地上計画への声明

1. ELT計画の推進
2. ELT計画推進に当たっての国際協力の推進
3. 大学との協調
4. 中小計画へのサポート

宇宙開発委員会・宇宙科学ワーキンググループ・座長様  
宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部・本部長様  
宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部・理学委員長様

## スペースからの光学赤外線天文学研究の推進について

2006年11月

光学赤外線天文連絡会

### 1. はじめに

光学赤外線天文学の研究にとって、スペースからの天体観測は極めて重要な手段であり、今後ますますその重要性が増していくことは間違いない。日本の光学赤外線天文学の研究コミュニティの連絡組織である光学赤外線天文連絡会(以下、光赤天連)は、2005年に「2010年代の光赤外天文学」と題する報告書をまとめ、地上からの観測とスペースからの観測という両者を視野に入れたわが国の光学赤外線天文学の総合的な将来計画案を提示した。宇宙科学の長期計画の見直しという重要な時期にあたり、本文書は、その将来計画構想を再度提示するとともに、特にその内のスペースからの観測計画に関連して、推進・実行体制を整えるよう要望をまとめたものである。

# スペース天文学への声明

1. JAXAという枠組みの中に、基礎科学である天文学推進の体制を整えてほしい
2. 大学との協調
3. JAXA・ISASと国立天文台との協調
4. 国際協力の推進
5. 中小計画の推進体制

# シンポジウムの獲得目標

- 地上・スペースを含めたロードマップの方向性を見出す
  - ELT計画とスペース計画の進め方
  - 中小計画の位置づけ
- ELT推進の具体的方向性につき、総意をまとめる
  - TMTなど海外計画への参画

# 光赤天連へのお誘い

- 光学赤外天文連絡会に入参しましょう
- 会費受付 川端氏まで